

日本企業の海外企業買収と企業パフォーマンス

鯉渕賢（中央大学）

後藤瑞貴（一橋大学大学院）

要旨

近年活発に行われている日本企業による海外企業の大型買収は買い手である日本企業にどのような影響を与えているのか。本研究では、1999年から2015年までに実施された日本の上場企業による買収価格1000億円以上の大型海外企業事例25社37事例について、買収直後と買収後の長期に渡る企業パフォーマンスを計測した。次の3つの主要な結果が得られた。第1に、買収のアナウンスが取得企業の株価に与える影響は、初報道日の周辺においてもサンプル全体で顕著な悪影響は観察されず、買収直後に大きく株価が下落した事例でも、その後買収完了までの交渉期間を通じて株価が回復する傾向が観察された。第2に、買収後の企業のパフォーマンスについては、10事例において取得によって計上された事業ののれんに何らかの減損損失が発生していたが、減損損失累計額が取得価格の50%超であった事例は4事例に留まった。さらに、事業別及び地域別のセグメント情報を用いて、被取得事業の売上高及び利益率の推移を長期的に計測すると、買収以降の被取得事業を含む事業セグメントは、買収完了後の直後から順調に売上高が増加し、同期間の主要既存事業セグメントの売上高成長率を大きく上回る傾向が顕著であった。また買収後の被取得事業を含む事業セグメントの利益率はほとんどの事例で正であり、主要既存事業セグメントの利益率とほぼ同水準であった。以上の結果は、既存の主要事業と日本地域の縮小傾向の下で、日本企業による大型の海外企業買収は、より高い成長性を追求する事業ポートフォリオの再構築において有効な経営戦略となりうることを示唆している。